

## ユネスコスクール 活動チェックシート

学校名	特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園
評価者氏名	佐藤雅史
記入日	2022年7月25日

評価基準：5：良くてきている、4：できている、3：普通、2：改善点がある、1：改善が必要

番号	評価の観点	確認資料例 (※)	資料の有無	自己評価 5～1
1	学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境を整える工夫をしているか。児童生徒および教職員が加盟校であるということを意識するよう促し、また、学校内外での認知に努めているか。	- 学校経営方針（体制・環境の整備を示す資料） - 広報資料	<input checked="" type="checkbox"/>	4
2	ユネスコスクールの使命や目的を理解した上で、ユネスコが特に重視している3つの分野（1.地球市民および平和と非暴力の文化、2.持続可能な開発および持続可能なライフスタイル、3.異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重）に沿った活動を実践しているか。	- 学校の教育・経営目標等 - 活動実績を示す資料（学校行事、授業研究、特別活動等）	<input checked="" type="checkbox"/>	5
3	地域の多様なステークホルダー（自治体、大学、社会教育施設、NPO、企業等）との連携などを通じて、持続可能な社会の構築のための開かれたネットワークを築くよう努めているか。また、交流相手の良さを認め合い、学び合うため、国内外の学校とのネットワークの構築に努めているか。	- 連携実績（連携先やプログラム等）が分かる資料 - 交流実績（交流先やプログラム等）が分かる資料	<input checked="" type="checkbox"/>	5
4	国際デーを少なくとも2つ取り上げ、学校全体で記念行事を行ったか。また、ユネスコや日本ユネスコ国内委員会が提案するプロジェクトやキャンペーンに参加したか。	活動実績を示す資料（記念行事やプロジェクトの報告書等）	<input checked="" type="checkbox"/>	4
5	当年度活動報告および次年度活動計画を毎年公式ウェブサイトへ掲載しているか。	公式ウェブサイトへの掲載	<input checked="" type="checkbox"/>	5
6	SDGs や ESD for 2030 など国際的な枠組みを意識して活動を行うよう努めているか。	活動実績を示す資料（上記1と同じだが、SDGs等と当該活動の関係が分かるもの）	<input checked="" type="checkbox"/>	5
7	ESDの推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果の積極的な発信に努めているか。	広報資料、行事や研究の成果報告書等（発信方法・内容が分かる資料）	<input checked="" type="checkbox"/>	4

（次のページに続く）

8	ユネスコスクールの活動を通じて育てたい資質や能力を明確にし、課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成したか。	教育課程	<input checked="" type="checkbox"/>	4
9	教科横断的な指導計画を立てるなど指導内容を適切に定め、さらに、革新的で参加型の指導方法にするなどの工夫改善を行っているか。	指導計画	<input checked="" type="checkbox"/>	4
10	今後のユネスコスクールとしての活動の質の向上のため、学校評価において、活動の点検を行ったか。	学校評価書	<input checked="" type="checkbox"/>	5
11	ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)や教育委員会、ユネスコ協会等の支援や協力を得ながら、活動の充実に努めているか。	支援実績や協力実績が分かる資料	<input checked="" type="checkbox"/>	5

(※) 確認資料例は、新たに作成いただく必要はなく、既存の資料の活用で差し支えございません。

#### ユネスコスクールとしての実践における成果・課題

子ども本来の成長発達プロセスに寄り添い、イメージと体験を通して、子どもたちが世界をひとつの有機的な統一体として実感し、その世界像と自分自身との絆をその内面に育むことが、私たちの教育実践の要です。創立から17年目の今、卒業した生徒たちの姿から、この実践が確かなものであることを実感しています。また、高学年の園芸の授業にコーディネーターが入ったことで、地域の環境保全NGOとの連携が飛躍的に進んだことは特筆すべき事柄です。

ユネスコスクールとしての課題としては、私たちの教育的アプローチが、たとえば、この活動チェックシートが想定しているアプローチとは異なる部分が多々あることです。私たちは高度に包括的な教育的アプローチを採用しているため、この活動チェックシートが想定する様々なアプローチの介入が、かえってその包括性を損ねてしまう可能性があります。以下に例をあげますと、

- 本シート4番の国際デーは、大河の流れのように進行する数々の教育エポックのなかにこれを取り入れることは、「取って付けたような」違和感を子どもたちに抱かせる可能性があります。数々の国際デーが世に問うている社会的課題は、適切な時期に自然なかたちで取り上げる方がより教育的と考えています。
- 本シート8番の「課題解決型の学習過程を重視した教育課程を」というポイントも、低・中学年の発達段階においては物語性とイメージを重視した授業の方が子ども本来の力を引き出す可能性を有していると感じています。低学年の学びにおいて大切なのは、学びが散文的にならないようにすることです。

ほかにも多々ありますが、このようなポイントを、多くの方に理解していただけるような検証や事例報告がさらに必要であることを課題として認識しています。

#### 今後の予定

上記にあげた課題に取り組んでいくこと、地域連携をはじめとした様々なステークホルダーとの連携をさらに進めていくこと、保護者の活動を活性化していくことに取り組んでいきます。

#### 自己全体評価（以下の該当する箇所に（☒）を付ける）

<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5：よくできている	4：できている	3：普通	2：改善点がある	1：改善が必要